



人文知は 心の佇まい

フォーラムの歩みを振り返る

一般社団法人
人文知応援フォーラム代表理事
大原謙一郎
Ken-ichiro OOHARA

人文知は、「人間力に裏打ちされた叡智」です。それは、深く広い知恵の集積であり、強くてしなやかな力の源泉であり、豊かで闊達な心の佇まいの拠り所でもあります。

そのような人文知を大事にして盛り立てて行こうと考える同志が集まって「人文知応援フォーラム」が結成されてから三年が経ちました。ここで一度、これまでの歩みを振り返って、課題をあらためて見直しておきたいと思えます。

創成期の思い出

フォーラムの創立メンバーが初めて一堂に会したのは二〇一九年十月二日でした。その場で、これまで重ねてきた議論を集約した「人文知応援フォーラム設立宣言」が採択されました。

宣言では、「さまざまな要素が絡み合って社会の根底を支える価値観さ

人文知を学び、深め、楽しむ活動
そのような議論の中から、「活動の旗揚げとして『第一回人文知応援大会』をなるべく早く開催しよう」という話が持ち上がりました。そして、「初回は社会と人文知をつなぐ試みをしてみよう」ということになり、東京大学の佐々木毅元総長と兵庫県立大学理事長の五百旗頭眞先生に登壇をお願いしました。

佐々木先生も五百旗頭先生も私たちの趣旨に即座に賛同され、周到に準備された素晴らしいレクチャーをしてくださいました。そして、このレクチャーをフォローして更に勉強したいという有志が参集し、大会直後から「分科会」がスタートしてさらに議論を掘り下げました。

やがて大会以外にもさまざまな動きが始まり、人文知を様々な視点から掘り起こそうという「人文知探訪プログラム」や、会員同士が和やかに語り合う会員例会もスタートしました。探訪プログラムでは、青森や岩手の人文知を掘り起こす企画も進みました。

さらに、今年の夏には、実験的な試みとして、倉敷で「人文知夏期学校」も開校しました。人文知を学び、深め、楽しむ活動が、フォーラムを舞台に徐々に広がっています。

これからが知恵と力の絞りどころ

こうしてフォーラムの基礎が固まって行くのと符牒を合わせるように、世界は大きく動きました。フォーラムの結成直後にはコロナが世界を襲い、パンデミックの嵐が吹き荒れました。それに加えて、今年二月にはロシアのウクライナ侵攻が始まりました。それと連動して北東アジアの安定も脅かされています。

世界を動かす価値観や力学は、激しく揺れています。その中で、私たちが拠り所としているリベラルデモクラシーの理念と体制が綻びを見せているようにも見えます。何とかそれを止め、新しい社会の在り方を工夫しなければなりません。それに失敗したら、世界が直面するリスクは二層高まると思わざるを得ません。

世界が動き、価値観が揺らいでいる今、人間の総合的な知恵としての人文知の役割は二層重く、切実になってきました。フォーラムとしても、人文知を探究し、広め、磨き上げて、実社会で活きて働くよう後押しする必要を、一層強く感じるようになりました。

設立から三年が経過した今、フォーラムには、大きな課題が突きつけられていると感じます。これにどう応えて行くか、これからが知恵と力の絞りどころだと感じています。

夢を叶えよう

私たちは、人文知が活きて働くことにより、平和で、心地良く、しかも一本筋の通った社会が出来上がって行くことを願っています。それが、私たちの夢です。

その夢を実現するためにやりたいことと、手をつけたいことは、文字通り山積んでいます。

まず、私たちは、多くの日本国民が人文知を蓄え、尊重し、活用するような土壌が出来るようにと願っています。

す。人文知応援大会や探訪プログラムや夏期学校を進めてきたのはそのためでした。これからもさまざまな行事を通じてその風潮をさらに強めて行くと同時に、このニュースレターを充実発展させたり、機関紙や叢書などを発行し、研究会や学会なども開催したりしながら、人文知がさらに広く認識されて活用されるように尽力できればと夢見ています。

また、私たちは、人文知を生み出す源泉である文化、芸術、人文学が自由闊達に発展するようにと願っています。

す。今の日本にそれを阻害し、制肘するような要素があれば改善を促して、この国が豊かな人文知が生まれ育つ国になるようにと願っています。そのため主張すべきことは主張し、アワードや研究会や学会なども開催できればと夢見ています。

私たちは、まだまだ力不足です。いっぺんに夢を実現することはできません。しかし、多くの皆様と一緒に、一歩一歩進んで行きたいと思えます。

人文知は、個々人の心を支え、社会の姿を整え、世界に調和にもたらず鍵

です。人文知応援フォーラムでは、これからの様々な工夫を凝らしながら、人文知を究め、活かし、楽しむ活動を二層上げ、深めて行きたいと夢見ています。

大原謙一郎
Ken-ichiro OOHARA

一九四〇年兵庫県生まれ。東京大学経済学部卒業後、イェール大学大学院経済学博士課程に学び単位取得退学。(株)クラレ副社長、(株)中国銀行副頭取(公財)大原記念倉敷中央医療機構理事長、(公財)大原美術館理事長、岡山経済同友会代表幹事、倉敷商工会議所会頭などを歴任。現在、大原美術館名誉館長(公財)倉敷民芸館理事長兼館長、当フォーラム代表理事兼会長。

New TOPICS

御所野遺跡は岩手県北部にある縄文時代の遺跡である。ここでは大人から子供まで、多くの人たちが遺跡で活動している。なかでも遺跡のすぐ近くにある二戸南小学校では遺跡がオープンする前から遺跡に関わっており、御所野愛護少年団を結成してからの活動は二〇年以上に及んでいる。当初は遺跡のなかの清掃活動が中心だったが、しだいに遺跡の内容に興味を持つようになると、毎年班ごとに研究テーマを決めて調査研究をするようになった。特に御所野遺跡の特徴のひとつでもある土屋根堅穴については、堅穴内の温湿度を測定したり、屋根勾配などを調べていつの季節でも比較的住みやすい環境だったということを確認している。このような研究成果を遺跡に

来られた多くの人に説明したいということになり、最近では五〜六年生が中心となつて遺跡のガイドにも力を入れている。平成二六年にはじめた博物館の「縄文里山づくり事業」では、自分たちでクリヤトチノキ、コナラなどの木の実を採取し、学校に持ち帰って苗を育ててから森に植栽している。木はその後順調に生育しており、縄文の森の見学スポットのひとつとなっている。

御所野遺跡にはボランティアグループが三団体ある。御所野遺跡の調査と保存に関わった人が立ち上げているが、そのなかのひとつが「御所野遺跡発掘友の会」である。長い間遺跡の発掘調査に携わった人たちの会で、毎月定例日に遺跡周辺の草取りなどを行っている。

「御所野遺跡を支える会」は見学者のガイド、「自然と歴史の会」は縄文遺跡だけでなく、周辺の文化財の調査や保護活動、さらには遺跡周辺の縄文里山での観察会や保護活動などに力を入れている。以上の団体はいずれも毎回十数人が定期的に活動しているが、そのほか年二回地域の団体や一般の人たちが参加するクリーンデーがある。最近では二百人以上の人が参加している。



岩手県御所野
縄文博物館館長
高田和徳
Kazunori Takada